

2024年11月12日

報道関係各位

## 11月14日（木）は World Diabetes Day

「世界糖尿病デー」は世界共通の「World Diabetes Day」へ  
糖尿病の正しい知識の普及を願い、全国 276 ヶ所でブルーライトアップを実施

World Diabetes Day 実行委員会（旧世界糖尿病デー実行委員会／一般社団法人日本糖尿病学会・JADEC（公益社団法人日本糖尿病協会））は、国際的な糖尿病の疾患啓発の日である「世界糖尿病デー」の表記を、2024年から世界共通の「World Diabetes Day（略称：WDD）」に変更することを決定し、これまで以上に糖尿病の正しい知識の啓発に取り組みます。

WDD の代表的な活動であるブルーライトアップは、今年も過去最多を更新し、日本全国で草の根レベルの糖尿病啓発活動を展開します。

### ■ブルーライトアップ

2006年に糖尿病の脅威に関する国連決議（UN Resolution 61/225）が採択されると、世界糖尿病デーを周知する目的で、世界各国で著名な建造物をブルーにライトアップするイベントが始まりました。日本でも、2007年の東京タワーのブルーライトアップを皮切りに、全国に活動が広がり、2019年にはほぼすべての都道府県で11月14日のブルーライトアップと市民向けの糖尿病啓発イベントが行われました。

本年は、過去最多となる276カ所の著名な建造物や糖尿病診療を行う医療機関等が青い光に彩られます。



東京都庁舎（協力：東京都）

### ■WDD 継続テーマ「偏見に No！ 糖尿病をもつ人はあなたと同じ社会で活躍できる人です」

糖尿病に対する不正確な理解がもたらす偏見により、糖尿病であることを隠したり、治療を中断してしまう人がいます。また、糖尿病を理由に、就職や結婚、生命保険の加入等で不利益を被る現実もあります。誰でも発症の可能性のある病気だからこそ、正しく知ってもらいたい。WDD ではここ数年、「偏見に No！」をテーマに掲げ、糖尿病に対する偏見をなくすために、正しい知識と理解が必要であることを訴えています。

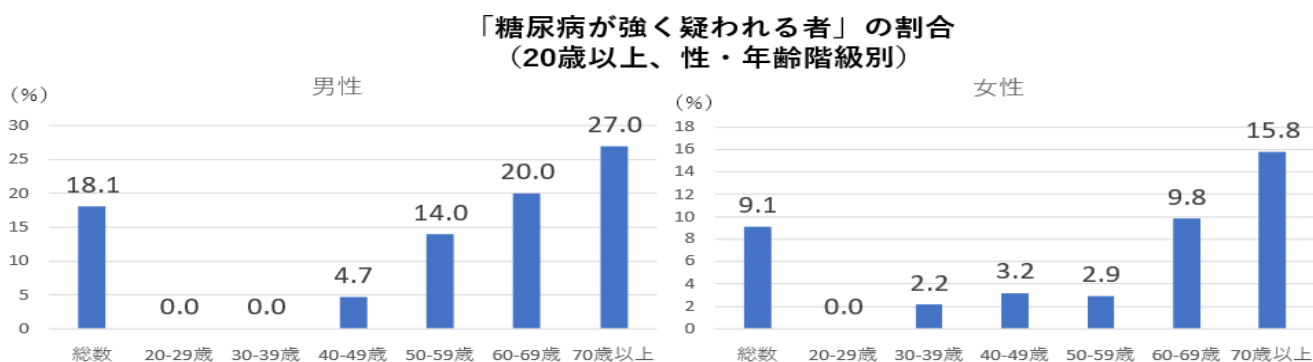
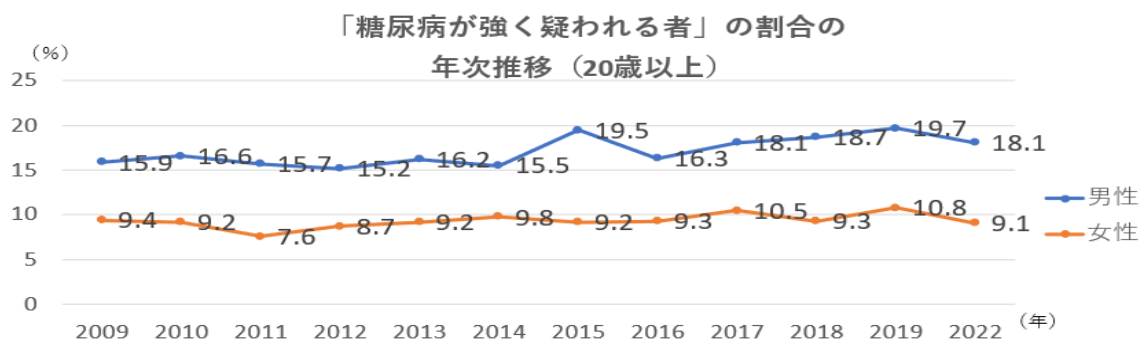
そして、偏見払拭のひとつの手段として提案した糖尿病の新たな呼称案「ダイアベティス」の普及をめざし、「糖尿病から、世界共通語の“Diabetes”「ダイアベティス」へ」というメッセージも掲げました。



2024年 世界糖尿病デー公式ポスター

## ■日本の糖尿病の概況

2022年（令和4年）国民健康・栄養調査（厚生労働省）によると、「糖尿病が強く疑われる人」の割合は、男性18.1%、女性9.1%でした。ここ10年間でみると、男女とも有意な増減はみられず、年齢階級別にみると、年齢が高い層でその割合が高くなっています。



### ※「糖尿病が強く疑われる者」の判定

ヘモグロビン A1c の測定値があり、国民健康栄養調査の身体状況調査票の問診において「これまでに医療機関や検診で糖尿病といわれたことの有無」「現在、糖尿病治療の有無」及び「現在の状況」が有効回答である者のうち、ヘモグロビン A1c (NGSP 値) が 6.5%以上または「糖尿病治療の有無」に「有」と回答した者

出典：令和4年国民健康・栄養調査結果の概要（厚生労働省）

## ■世界の糖尿病の現況

- 2021年、世界の成人（20-79歳）糖尿病人口は**5億3,700万人**。10人に1人の割合です。中でも、アジア・太平洋地区は、2億600万人と世界で最多となっています。
- 世界の成人糖尿病人口は、**2045年には7億8,300万人**に増加すると予測されています。
- 世界で**5億4,100万人**の成人が耐糖能異常の状態、2型糖尿病のハイリスク群となります。
- 2021年、糖尿病は**670万人**の死亡の原因となっています。**5秒に1人**が糖尿病に関連する疾患で命を落としています。
- 世界の糖尿病治療と合併症管理にかかる医療費は、少なくとも**9,660億ドル（約145兆3,830億円）**にのぼります。これは、世界のGDPの約1%を占め、日本の2022年度予算の約1.5倍に相当します。過去15年間で316%の増加となっています。
- 世界の成人糖尿病人口の**4人に3人以上（81%）**は、低・中所得国に住んでいます。

出典：IDF Diabetes Atlas 10th edition 2021（2年に1度発行）

## ■関連ウェブサイト

|                          |   |
|--------------------------|---|
| World Diabetes Day 実行委員会 | <a href="https://www.wddj.jp/">https://www.wddj.jp/</a> (ブルーライトアップ／イベント一覧掲載)                              |
| JADEC (日本糖尿病協会)          | <a href="https://www.nittokyo.or.jp/">https://www.nittokyo.or.jp/</a>                                     |
| 日本糖尿病学会                  | <a href="http://www.jds.or.jp/">http://www.jds.or.jp/</a>   |
| 日本糖尿病対策推進会議              | <a href="https://www.med.or.jp/doctor/diabetes/">https://www.med.or.jp/doctor/diabetes/</a>               |
| 厚生労働省 令和元年「国民健康・栄養調査」の結果 | <a href="https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_14156.html">https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_14156.html</a> |
| IDF                      | <a href="http://www.idf.org/">http://www.idf.org/</a>   |
| IDF Diabetes Atlas       | <a href="http://www.diabetesatlas.org">http://www.diabetesatlas.org</a>                                   |

## ★世界糖尿病デー (11月14日) の由来

1921年に糖尿病治療に必要なインスリンを発見したフレデリック・バンティング博士(カナダ／1891-1941)の誕生日。シンボルカラーのブルーは、国連色とどこまでも広がる青空の色から採用されました。2006年12月20日、国連総会において糖尿病の脅威に関する決議が採択され、(UN Resolution 61/225／United Nation) 公式な国連デーとなりました。

## ★ブルーサークルとは

World Diabetes Day のキャンペーンには、青い丸をモチーフにした「ブルーサークル」が用いられます。これは、糖尿病に関する国連決議が採択された翌年2007年から使われるシンボルマークです。どこまでも続く空を表す「ブルー」と、団結を表す「輪」をデザインし、「Unite for Diabetes」(糖尿病との闘いのため団結せよ) というキャッチフレーズとともに、世界中で糖尿病抑制に向けたキャンペーンを推進しています。

## ★World Diabetes Day 実行委員会とは

2006年の国連決議を受けて、日本国内の糖尿病啓発を促進するためにJADEC(日本糖尿病協会)と日本糖尿病学会により設立された任意団体です。World Diabetes Dayに関する国内の啓発活動を統括し、各地のブルーライトアップや地域密着型イベントを支援しています。

## ★IDF とは

International Diabetes Federation (IDF／国際糖尿病連合)は、170カ国・地域から230以上の糖尿病関連団体が参加する組織で、1950年から世界の糖尿病関連団体をリードし、増加する糖尿病患者とその予備群を支援する活動を展開しています。2006年の国連決議採択では、世界保健機関(WHO)とともに主導的な役割を果たしました。日本糖尿病学会・JADEC(日本糖尿病協会)もIDFの正会員です。

\*\*\*\*\*

### ◇国内ブルーライトアップ、イベントに関するお問い合わせ先◇

JADEC (公益社団法人日本糖尿病協会) 事務局

〒102-0083 東京都千代田区麴町2-2-4 8F

TEL : 03-3514-1721 FAX : 03-3514-1725

E-mail : office@nittokyo.or.jp